

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
本校の児童は、意欲的に歌ったり、演奏したりすることができる児童が多く、楽しみながら学習に取り組むことができる。また、共通事項の習得も、適宜取り入れることで、少しずつ定着してきた。	習得した共通事項を、自分たちの演奏に取り入れるという活用の部分に課題を感じる。習得した共通事項を自分たちで自然と活用できるように、くり返し共通事項を意識した授業を展開していく。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	大きな声で歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりすることを好んで行う児童が多い。鍵盤に不慣れな児童がいる。	真似っこ遊びなど、鍵盤で楽しく遊びながら、拍の流れによってタンギングする活動を取り入れていく。
2年生	鍵盤ハーモニカの技能に差があり、個人では演奏・歌唱ができていても全体でのリズム、ハーモニーを楽しむことができない児童がいる。	少人数で合わせたり、聞きあいながら、自分以外のパートの出す音を鑑賞できるように指導していく。
3年生	歌唱の際の頭声発声への切り替えと、器楽での音階の認識、階名唱に課題がある。	範唱を活用して、頭声発声での歌声を具体的にイメージさせる。読譜の活動時間を十分に確保し、少しずつ確実に習得させる。
4年生	児童が課題を解決していく際のグループ活動の取り組み方に課題を感じる。スムーズに活動に入ることができない時がある。	めあてを明確にし、児童が目的をもって活動に参加できるようにする。 他のグループの例を紹介する等して、グループ活動の取り組み方を習得していく。
5年生	児童の課題解決に向けての取り組みに課題を感じる。言われたとおりに取り組むことはできるが、自ら意欲的に取り組むことがでない。	自分たちで考えて課題を進めていくようなグループ活動を意図的に取り入れたり、子どもたちが自分の考えをもって授業に取り組むことができるような活動を取り入れたりする。
6年生	今までの学習で習得した事項について、活用しながら課題を解決していく力に課題を感じる。	取り扱う楽曲中に適宜共通事項を取り入れ、児童が意識して取り組むことができるように授業を組み立てる。一時間中の目当てを明確にして児童に課題を意識させる。

●学校全体で取り組む内容

それぞれの学年での学習だけではなく、次の学年での学習内容も見通して指導を行う。読譜の力や音程の捉え方については、低学年から少しずつ習得させステップアップしていく。共通事項については、それぞれの楽曲ごとに扱う項目を決めて適宜学習していくことで児童に定着させる。
